

## 「青の洞窟」「夕陽の日」... わざわざ行きたい天草の絶景

新型コロナウイルス感染症拡大の黒い影が世界を覆っている。日本国内でも長引く自粛生活の影響で観光、飲食業を筆頭に経済活動への悪影響は甚大だ。熊本県も例外ではない。5年前の熊本地震、昨年 of 豪雨災害もあり、蒲島郁夫知事は「まさに三重苦」と危機感を隠さない。そんな中、熊本市中心部からは離れた天草地方には「わざわざでも行きたい」魅力的な観光資源がある。

天草市南部にある「伏魔洞」。そのおどろおどろしい名とは裏腹に深く濃い青色の海水面が楽しめる海の洞穴だ。「イタリアに負けない“青の洞窟”」という住民も。世界文化遺産の崎津集落を対岸に、天草灘の荒海が浸食した断崖を横目に南下すると見えてくる。洞口は幅約8m、干潮時の海面からの高さは約11m。中に進むと天井の岩はエメラルドグリーンに輝く。天草市によると奥行きは200mほどあるという。本紙のローカル面に取り上げられてから問い合わせが相次ぎ、地元でも崎津教会などと組み合わせた観光資源とする道を探っている。天候や潮の具合次第では接近もままならないレアさが、逆に魅力にもなっている。

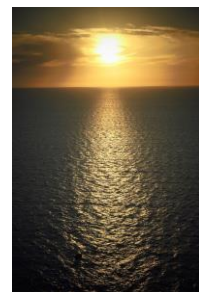
一方、天草西海岸の夕陽もこれからの秋から冬にかけて、何度かトライしても見る価値のある絶景だ。1932年には歌人の与謝野鉄幹・晶子夫妻が十三仏公園（天草市天草町）を訪れ、「天草の西高浜のしろき磯 江蘇省より秋風ぞふく（晶子）」などと絶景を詠んだ。天草市でも2011年に名所を集めた「天草夕陽八景」を選定し、その後、11月18日を「天草夕陽の日」とすることを決めた。「夕陽の日」を提案した地元出身の放送作家・小山薫堂さんも「天草の宝」とその美しさを絶賛する。

いずれも熊本市から車で3時間以上。福岡、熊本、伊丹の各空港から定期便のある最寄りの天草空港からでも1時間以上はゆうにかかる。ただ、それだけの時間をかけて見るだけの価値はある。

熊本日日新聞生活情報部 陣立昌之



伏魔洞入り口近くの深く濃い青の海面。天井の岩はエメラルドグリーンに輝く



「十三仏公園」から眺める東シナ海に沈む夕陽。光の道が神々しい